

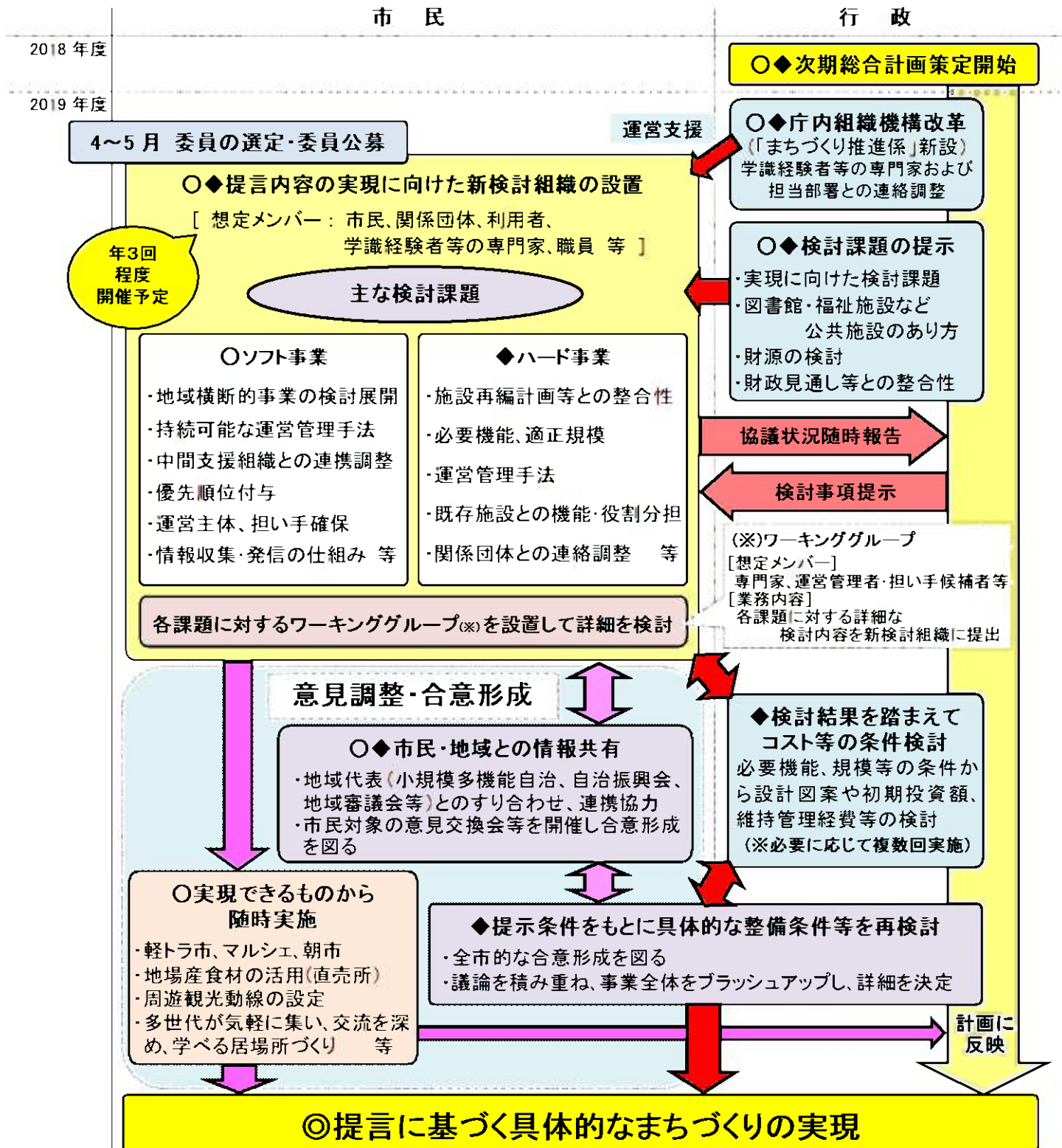
まちづくり検討会議からの提言実現に向けた今後のスケジュールについて

まちづくり検討会議からの提言実現に向けた課題の解決にあたっては、新たに設置する検討組織での協議検討内容を踏まえながら、実現可能性の高いものから優先的に取り組んでいきます。

まずは、ソフト事業のうち、既に実施されている取り組みの整理統合・連絡調整・連携協力・ブラッシュアップなどを行い、各地域および全市横断的なまちづくり事業を展開し、市全体の活性化を図ります。

また、ハード事業については、既存施設の機能や役割等を検討しながら、真に必要な機能、適正規模、インシャルコストやランニングコストの検討・試算などを行い、日常的に市民が気軽に使えて、将来負担の少ない、理想的な居場所づくり・まちづくりを目指して、次期総合計画に盛り込んでいきます。

《提言実現に向けたスケジュール》 (○ソフト事業、◆ハード事業)

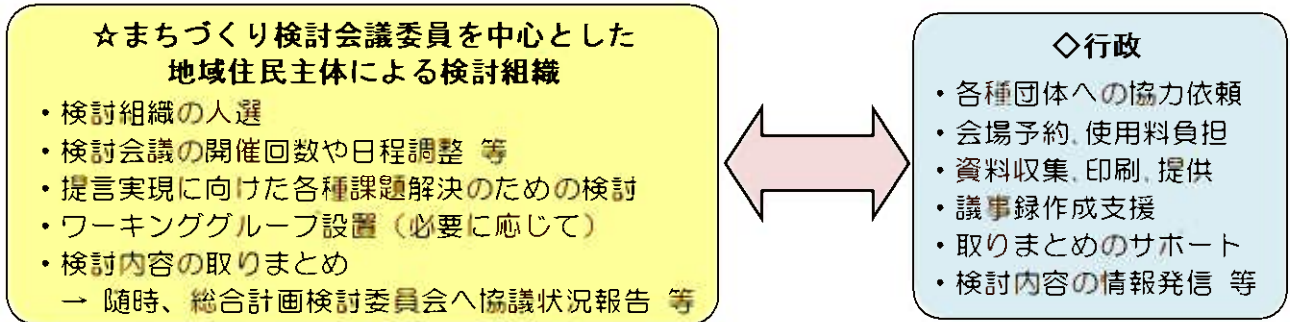


◎まちづくり検討会議からの提言実現に向けた新検討組織体制の構成（案）

- ・ 全市的な観点 → 総合計画審議会で検討
- ・ 地域的な課題 → 新検討組織で実現に向けて再検討

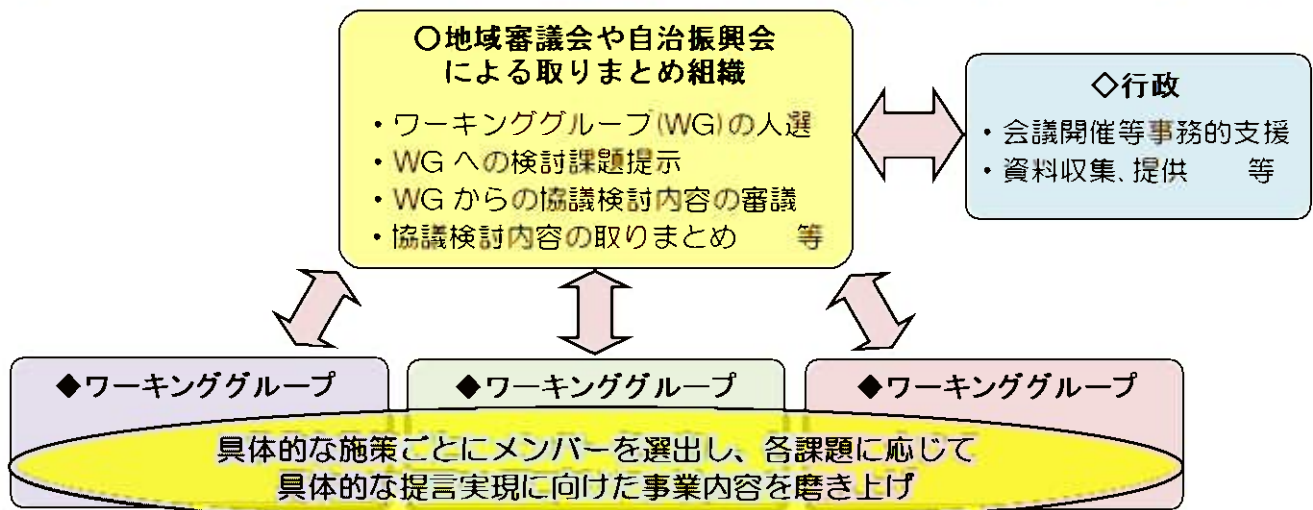
案① 地域住民主体の新検討組織

まちづくり検討会議委員等の地域住民が主体となり、ワーキンググループの設置など、提言実現に向けた課題検討組織の設置・運営等を担う。行政は円滑な運営及び協議検討をサポートする。



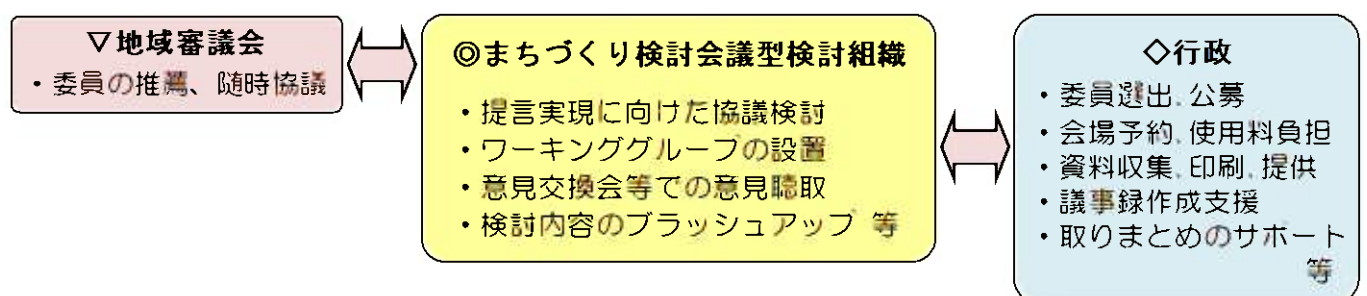
案② 地域審議会主体の新検討組織

地域審議会や自治振興会などが主体となって具体的な施策ごとに担い手となるメンバーを選出し、ワーキンググループ(WG)を設置。WGの協議検討内容を審議し実現に向けた取り組みを行う。



案③ 行政主体の新検討組織

行政が主体となって、施設再編計画等の各種計画との整合性や全市的なバランス等を考慮しながら、提言実現に向けて現実的で持続可能な施策や財源等の検討を行う。



まちづくり検討会議からの提言実現に向けた課題整理（市全体）

<市全体をみて検討すべき課題>

1. 図書館や高齢者福祉施設のあり方

今後の人口見通しを踏まえた、中央図書館とその他の図書館の機能分担、老人福祉センター等の高齢者福祉施設のあり方、提供すべきサービスの適正な規模の検討（行）

2. 市全体を捉えた必要な機能・規模

何を残し、何を活かし、何を求めるのか、市全体のバランスや将来展望を踏まえた上で、必要な機能と規模の検討（行・民）

3. 財政的課題

今後の財政見通しを踏まえた施設整備や維持管理に充当できる金額の算定（行）

<共通して検討すべき課題>

1. 各種計画との整合性

公共施設再編計画等、各種計画との整合性の検討（行・民）

2. 効果的な運営手法及び整備財源

官民連携による公共サービス提供手法である PPP (Public Private Partnership) や PFI (Private Finance Initiative: 公共施設等の維持運営管理に民間資金やノウハウを活用した効率的で効果的な民間主導型の公共サービス提供手法) 等の導入検討、国や県の補助金の活用、有利な起債、クラウドファンディング・幸せ未来基金など整備財源の検討（行・民）

3. 施設管理者や事業運営者と事業実施費用

誰が施設管理を担うのか、誰が事業を実施するのか、民間事業者や地域団体、行政、官民連携等、実施主体と維持管理経費の負担者を決定（行・民）

4. 小規模多機能自治との連携

交通弱者対策（デマンドバス・タクシー等）を含めた小規模多機能自治との役割分担・連携強化（行・民）

5. 既存施設の活用と民間事業者との調整

「居場所づくり」に今ある施設を活用するなど、既存施設の利活用を検討（行・民）

6. 既存事業の活用と連携

既に市内で実施されている事業や民間事業者が実施している事業の活用・連携については、役割分担とともに民業圧迫にならないよう配慮（民）

7. 優先順位

複数の事業提案がある場合、優先順位を決定（民）

8. 役割分担

ソフト事業の主体は市民、行政は支援、協働による事業実施の場合、責任の所在を明確化（行・民）

まちづくり検討会議からの提言実現に向けた課題整理（福光地域）

〔ハード事業：新たな施設整備や既存施設の改修等〕

- 福光会館（中央図書館）を改修し、幅広いニーズに対応できる居場所づくり
地域内・市内・近隣自治体類似施設との機能分担・住み分け
 - ・ 人口減少を踏まえた施設（規模・コスト・必要性・ニーズ把握など）のあり方（行）
 - ・ 運営主体の選定と維持管理経費等の財源確保（行・民）
 - ・ 地域内類似施設との役割分担・必要機能の詳細検討（民）
- 福光福祉会館周辺を再整備し、全天候型の居場所とし多世代で利用できるエリアづくり
 - ・ コスト試算（イニシャル＋ランニング）、予算計画の調整検討（行）
 - ・ 必要な機能、規模、レイアウト（民）
 - 福光会館とあわせた公共施設再編計画との整合性、機能分担の検討（民）
 - ・ カフェ、あそび場、休憩所、シェアキッチンなど必要機能の詳細検討（民）
 - ・ 運営主体の選定と維持管理経費等の財源確保（行・民）
 - ・ 福光会館(中央図書館)、福光福祉会館、まちなかの空き家、空き店舗など既存施設の活用検討（行・民）

〔ソフト事業：新たな制度の創設や手法の展開等〕

- 実施場所・規模・レイアウトと運営主体（民）
- 福光会館（中央図書館）を改修し幅広いニーズに対応できる居場所づくり
 - ・ コミュニティカフェ・丸ごと相談窓口の運営主体（民）
 - ・ 情報収集・発信・管理拠点、地域情報ポータル web サイトの立ち上げ、運営主体の選定（民）
 - ・ 中間支援組織の活動拠点整備、場所・規模の検討（民）
 - ・ 「連携・仲介・支援」の対象となる既存組織や市民活動団体（民）
- 市民活動を充実させる中間支援組織が地域の情報集約・発信をサポート
 - ・ 既存の中間支援組織との役割分担（民）
 - ・ 多様な相談や情報が集積する「居場所」の必要性、運営主体（民）
 - ・ 小規模多機能自治、地域づくり協議会、市民団体などと課題解決に向けた連携調整（行・民）
- 「まちなかエリアを回遊できるまちづくり」の実現
 - ・ 運営主体の選定、必要な行政支援の内容（民）
- 「里山とのつながりで豊かな食・農・時間を共有する」の実現
 - ・ 里山の魅力発信をプロデュースする実施組織の立ち上げ、運営主体の選定（民）
（民間事業者・まちづくり団体・NPO 法人主体）
 - ・ 地元特産品を地元飲食店で使ってもらうための支援内容（民）
 - ・ 6次産業化の検討調整等の担い手（行・民）
 - ・ 里山職業セミナー、里山マイスター、坪地主や半農半 X による農業体験の運営主体、内容（民）
 - ・ 里山の環境美化保全、郷土学習等の具体的内容（民）
 - ・ 実施に向けた関係団体機関との調整（行・民）

《すでにある取り組み事例》

【城端地域】

- ▽ベタンク、体操・ヨガ教室、囲碁サロン等のサークル活動
- ▽軽トラ市・マルシェの開催
- ▽「まちのえき」の開設

【井波地域】

- ▽なんとポイント・市内共通買物券の活用
- ▽地場産野菜直売所の開設運営
- ▽農産物オーナー制度
- ▽宿泊・民泊斡旋紹介アプリの活用(Airbnb など)
- ▽観光案内拠点(交通広場の活用)
- ▽国際木彫刻キャンプ・キャンプ作品まちなか展示
- ▽木彫刻スマホスピーカー等の制作体験
- ▽地場産食材の活用と伝統料理教室等の事業展開
- ▽彫刻パーク・体験拠点、アトスペース、彫刻師養成事業

【福野地域】

- ▽芝生広場（猿が辻公園）
- ▽空き家改修交流施設
- ▽市施設の空き室活用
- ▽福野家守舎の取り組み（NishichiMarche など）
- ▽オーガニック農業、耕作放棄地での農業体験
- ▽生涯学習としての ESD 教育の研究・検討
- ▽「地域課題解決」の具体的なカリキュラムの検討・実践 [福光高校の事例]
- ▽地域の伝統文化（福野織など）の PR
- ▽エコ住宅ゾーン整備

【福光地域】

- ▽社会福祉協議会主催相談事業
- ▽中間支援組織の取り組み（「ふくみつつ」「ほっこり南砺」「にほんご広場なんと」「エコトママン」等）
- ▽女性起業塾などの取り組み（チャレンジショップ）
- ▽棟方志功の足跡巡り（ウォーキングコース）設定 <棟方徑道めぐり>
- ▽空き家対策
- ▽地元特産品提供・六次産業化（ワイナリーなど）
- ▽朝市（福社会館周辺）
- ▽中央図書館の活用（コミュニティカフェ・相談窓口・市民活動支援拠点）
- ▽まちづくり会社の支援
- ▽あることカレンダー等の作成運用
- ▽郷土学習の実践
- ▽里山職業セミナー・里山マイスター事業

1. 福光地域の現状と課題

◎福光地域の現状

【強み】

- 四季折々の多彩な風景は「不便さ＝豊かさ」が魅力的と感じる世代にアピールできる
 - ・山に近く自然が豊かで星がきれい
 - ・祭礼行事や農業（営農組合）などで「つながり」や「人づきあい」の強い地域
 - ・「富山干し柿」生産のほか、果樹園、酒造りやワイン造りがある
 - ・若い猟師がいて、ジビエ料理を考えている
 - ・スキー場があり、市外からの利用者がいる
 - ・天然温泉があり、効能がそれぞれ違う
- モノ作りを中心とした工場が多数ある
- 交通のハブである
 - ・国道・県道・高速道路のインターチェンジ・JR 城端線
 - ・金沢と隣接している
 - ・福光駅と商店街が近い
- 松村謙三の生誕地であり、棟方志功ゆかりのまちとしても生涯学習でPR できる
- 他地域にない支援活動がある
 - ・〈ふくみつつ〉が、現在活動中の個人や団体を結ぶ、民間中間支援グループとしてネットワークづくりをしている
 - ・〈ほっこり南砺〉が、地域のお茶の間として「みんなの居場所づくり」をしている
 - ・〈にほんご広場なんど〉が市内在住外国人と地域を結ぶ「多文化共生」をめざしている

【弱み】

- 個々の活動に情報・ネットワークを使った横のつながりがなく、孤立しがちである
 - ・子育て世代や若者や高齢者などが、交流できる機会と情報と場所が少ない
 - ・雨天や積雪時に子どもを連れてゆっくり遊べる場所がない
 - ・住民意識が、まちづくり・地域に関して希薄である
 - ・少子高齢化、若者の市外流出などによる人口減少
- 空き家・空き地・空き店舗の増加が目立つが活用されていない
- まちなかの美しい自然というロケーションを活かしきれていない
- なんバスの土日運休に困る（公共交通が充実していない）

◎福光地域の課題

- 官民一体的な取り組み
- 多様な人たちとの「つながり」「かかわり」づくりの場を創造
- 誰でもいつでも情報を共有できる仕組み・仕掛けづくりで、市民と団体が連携
- 福光駅と商店街と小矢部川河川敷を活かしたにぎわいづくり
- 福光福祉会館周辺の宇佐八幡宮や福光公園を訪れる人の利便性と利用率を高め、景観に合わせた居場所を整備
- まちなかと里の結び付きを継続させる企画の立案と実施
- 庁舎統合計画による公共交通網の整備
- 福光高校廃校後の利活用
- 小中学校のスポ少・部活動問題

2. 福光地域が目指す「まちづくりの方向性」

テーマ：今あるものを活かしたにぎわいづくり

- ① 情報の集約と発信できる居場所
- ② まちなかエリアを回遊できるまちづくり
- ③ 里とのつながりで、豊かな食・農・時間を共有する

3. 「まちづくりの方向性」の実現に向けた具体的な取り組み

①情報の集約と発信できる居場所

<目指すべき姿>

- ・人と情報が交流することで共感を得られる居場所ができる
- ・居場所は多様な相談の受け皿となり、行政や関係機関とつなげたり市民活動を支えたりする

<方策・具体的な取り組み>

- 今ある施設を有効に活用して、幅広いニーズに対応できる居場所づくりを目指す
 - ・「コミュニティカフェ」の併設で、より多くの人が集いやすい環境を整備する
 - ・常駐するコンシェルジュを配し、「丸ごと相談窓口」を機能させる
 - ・市民や地域活動、ボランティアの相談を受けたり支援をしたりする
 - ・助成金の活用で市民活動を支える
- 情報の収集と発信を行うと共に、情報の管理をすることで必要な人に届くようにする
 - ・地域型コミュニティと目的型コミュニティ、あるいは個人や企業などをネットワークでつなげる
 - ・情報の集積場所としてwebサイトを立ち上げる
 - ・情報発信手段として紙媒体も活用する
- 今ある環境をいかして社会性や経済性を備えた仕組みづくりや空間デザインし、「福福福（ふくみつ）のスタイル」を創る
- 元気な高齢者、障がい者の活躍の場をつくる

<地域（自分たち）で取り組むこと>

- 市民活動の〈知る〉〈楽しむ〉〈支える〉〈育てる〉〈つなぐ〉〈つなげる〉機能を充実させる中間支援組織となる
 - 〈知る〉 情報の集積および発信
 - ・多様な情報を統合した推進拠点として、webサイトを立ち上げる
 - ・「つながりマップ」「あることカレンダー」「これ、できますマップ」「学生が作るまちの情報誌」「地域魅力マップ」を作成し、「見える化」する
 - ・チラシの配架、ポスター掲示
 - 〈楽しむ〉 実践の場の提供
 - ・「コミュニティカフェ」「チャレンジショップ」
 - 〈支える〉 支援及び交流の促進
 - ・子育てや介護などの悩みや、外国人の生活サポートなどの福祉、婚活支援など、多様な相談の受け皿となり、互助のコミュニティの場を設ける
 - 〈育てる〉 人材の育成やアドバイザーの派遣
 - ・「インターンシップ」「やっとなことツアー」
 - 〈つなぐ〉 ニーズに応じた人・情報をつなぐ
 - ・地域型コミュニティ（自治会、各種地域団体、まちづくり協議会など）
 - ・目的型コミュニティ（NPO、ボランティア団体、まちづくり団体など）
 - 〈つなげる〉 行政や関係機関へとつなげる
 - ・「丸ごと相談窓口」「元気な高齢者、障がい者の活躍の場」

○情報の収集と発信（SNSも活用する）

- 【生活】子育て・お仕事情報・地域行事・サークル活動・お店情報
- 【福祉】ボランティア活動・地域包括ケア・多文化共生
- 【観光】里山農林体験・体験ハウス・観光情報
- 【行政】行事・支援情報・人材育成

<この取り組みに必要な支援（行政に望むこと）>

- ・「コミュニティカフェ」、「丸ごと相談窓口」等、幅広いニーズに対応できる居場所スペースの確保
- ・Wi-Fi環境の整備
- ・いろんな団体や行政との連絡体制の整備

<この取り組みによって解決できる課題>

- ・地域型コミュニティ（自治会、各種地域団体、まちづくり協議会など）や目的型コミュニティ（NPO、ボランティア団体、まちづくり団体など）、あるいは個人や企業、大学などが、さまざまな活動を実践するとともに、つながりや交流が生まれる「居場所」として位置づけることで、応援し合う住民関係が作られる

②まちなかエリアを回遊できるまちづくり

<目指すべき姿>

- ・福光駅・庁舎周辺～福光福祉会館周辺～中央図書館を結ぶ「福福福（ふくみつ）トライアングル」という回遊できるエリアで豊かな時間を過ごすことができる
- ・親しみのある神社や公園に親子・高齢者・地域の人が集い、健康づくりをしたり、まちの歴史を感じたりして、楽しめる環境をつくることでまちなかを活性化

<方策・具体的な取り組み>

○駅周辺

- 小矢部川から宇佐八幡宮や福光福祉会館周辺に向けて、まちなかを通る多彩なコースを設け、看板やマップで案内したり、QRコードでマップ表示したりする

- ・〈健康目的〉四季を感じるウォーキングコースやまちの名所を巡るお散歩コース
- ・〈学習目的〉棟方志功の足跡巡りや松村謙三の偉業巡り
- ・四季を感じる地点やSNS映えエリアを案内
- ・小矢部川沿いの空き家を、四季の風情を楽しめるカフェ、授乳室、多目的トイレ、休憩所などに活用

- 福光福祉会館周辺は、ゆったり過ごしたい人が交流する全天候型の居場所とし、福光公民館とのつながりを持たせ、多世代で利用できるエリアをつくる

- ・「カフェ+あそび場（親子連れ）+ゆったり長居できる（多世代）スペース」で、集まりやすい場所
- ・景観に配慮したデザインで軒下の長い屋根付きスペースでは、朝市、マルシェの開催やテラスカフェもできる
- ・外部からも見えるようなシェアキッチン設備で、みんなで料理ができる
- ・授乳室を設けて赤ちゃん連れに配慮し、障がい者も利用しやすい造りにする
- ・だれでも利用しやすい多目的トイレにする
- ・朝市夕市マルシェ開催で、里・農家とのつながりを活かす。
- ・地元的新鲜な食材や、若い猟師によるジビエ料理を、キッチンカーやマルシェの食材として提供する

- まちなかの空き家や空き店舗を活用して「お散歩の駅」をつくる

- 中央図書館は施設全体を有効活用して、幅広いニーズに対応できる居場所とする

- ・図書館機能+コミュニティカフェ+丸ごと相談窓口
- ・市民活動を〈知る〉〈楽しむ〉〈支える〉〈育てる〉〈つなぐ・つなげる〉役割でコーディネートし運営する

<地域（自分たち）で取り組むこと>

- ・福光福祉会館周辺の居場所として携わる人材の育成やアドバイザーの派遣
- ・観光ガイドグループと連携して回遊性を活かした多彩なコースを作り、まちなかに人の流れを作る
- ・距離を表示し、わかりやすくする
- ・まちなかや小矢部川周辺にベンチを設置する
- ・「お散歩の駅」として空き家を利用して、子ども連れや高齢者などにやさしい空間（多目的トイレ・授乳室・休憩所・カフェ）を設える

<この取り組みに必要な支援（行政に望むこと）>

- ・駐車場整備
- ・福光福祉会館周辺に居場所の新設
- ・Wi-Fi環境の整備

<この取り組みによって解決できる課題>

- ・居場所を利用する人の駐車の手がかりが解決される
- ・まちなかにある元々恵まれている自然を活かすことができる
- ・まちなかの回遊できるエリアで人の流れにより活気が出る

③里山とのつながりで、豊かな食・農・時間を共有する

<目指すべき姿>

- ・豊かな自然にあふれた里山とまちなかの関係や取り組みを知る
- ・里山の魅力を再発見し、まちなかの「福福福（ふくみつ）トライアングル」とのつながりを深める

<方策・具体的な取り組み>

○里山とまちなかのつながり

- ・自然と触れ合う機会をつくる目的で、行政やボランティア団体と共に小矢部川の環境を良くしていく活動をする
- ・坪地主制度による農作業体験や半農半Xのライフスタイルの推奨
- ・郷土学習を学校教育に反映させる（刀利ダムと水など）
- ・空き家対策の一つとして民泊事業を行い、移住対策としてツアーコーディネートをする（空き家見学、農林業体験、田舎暮らし体験、研修など）
- ・地元特産品を飲食店で提供し、市民が楽しみ、そこから拡大を図る（酒、ワイン、干し柿、かぶら寿司など）
- ・朝市夕市やマルシェなどに農産物提供でつながる

○里山の魅力

- ・キャンプや野外あそびを作り行き来する
- ・農作業・収穫体験を耕作放棄地で行う
- ・里山の職業セミナー（農林業・製造業・加工業など）で体験する
- ・里山マイスター（歴史や郷土料理など）から学ぶ

○福光美術館への松村記念館移設を検討し、棟方志功や石崎光瑤とあわせて地域ゆかりの偉人として広く来館者に知ってもらう

○金沢方面からの入り口としての地理的利点を活かし、観光客の引き込みやインバウンド誘致を充実させる

<地域（自分たち）で取り組むこと>

- ・地域型コミュニティと目的型コミュニティ、あるいは個人や企業などをネットワークでつなげて、情報の収集と発信をする
- ・里山とのつながりを作り出すマップ作り（行きたくなるマップ）
- ・行政やボランティア団体と共に、里山から流れる小矢部川の環境を良くしていく活動

- ・郷土の歴史や料理、職業などを学ぶ機会をつくる
- ・民泊事業の推奨
- ・季節を感じる農作業・収穫体験、野外遊び
- ・市場・マルシェの里山で取れた農産物の販売

<この取り組みに必要な支援（行政に望むこと）>

- ・小矢部川の環境保全
- ・移住者対策
- ・就農支援
- ・民泊事業の推奨
- ・松村記念館の移転

<この取り組みによって解決できる課題>

- ・多様なニーズを持つ移住者へのフィードバック、PR 効果
- ・地域に暮らす人たちの地元への愛着の醸成
- ・「里山」と「まちなか」の交流促進、良好な連携協力関係の構築

平成 31 年 2 月に開催された地域審議会でのまちづくり検討会議に関する意見
(地域審議会委員からのご意見…●、市当局からの回答…○)

福光地域審議会

- 提言の内容は、旧町部や駅から西側だけの市街地中心の考え方。里山のことは少しだけ触れられているが、駅東の開発予定や高速道路のインター付近などについてはまったく触れられていない。また、旧 4 町の分庁舎が統合されて福光庁舎が統合庁舎となることで、庁舎の会議室は使用できなくなり、大きな会合ができなくなるということについて、どう考えているか。
 - まちづくり検討会議と地域審議会との意見交換会でもそのような意見があり、農産業や里山について加えられた。駅東のことについてはこの提言では読み取りにくく、今後具体的に進めるにはまだまだ課題があり、4 月以降、地域の総意をとりまとめる取り組みが必要であると考えている。会議室の件については、民間施設では農協会館、公共施設では福祉会館や福光会館がある。公共施設再編の観点から、今ある施設の活用についてご理解いただきたい。
 - それぞれの地域で、庁舎の統合と公共施設再編に関連した議論が深まったことから、まちなかの議論が中心となってしまった。提言の内容がまちなかに集中しているというのは事実であるが、総合計画への反映については幅広い地域づくりの意見をうかがう機会が必要だと考えている。
- 提言の文言がわかりづらい。「多様な相談所」とは、漠然としていて、誰がどこで、どうして、という具体的な表現でなければ、多様な価値観があり多様な人がいる中で、前に進めないのでは。私の地区では、交流人口が増えるということや新しく家を求めたり昼間人口が増えたりといった基礎的なものに変化はあまり見られないが、例えば、西太美地区では、空き家対策というわけでもなく、多様な人々が入ってきている事実がある。このようなことが盛り込まれていない。また、福光地域は広い中山間地を抱えていることから、そこを活かすことも盛り込んでおくべき。
 - おっしゃる通り、提言に主語が抜けていては話が進んでいかない。現在、課題の整理を内部で行っており、4 月以降に地域の方たちとも相談しながら取り組んでいきたい。
- 「福福福トライアングル」の意味は、どのような意図でつけられたのか。
 - 「福」が 3 つで「福福福（ふくみつつ）」、それから、福祉会館、中央図書館、駅・庁舎をつなぐと三角形になることから、親しみやすさを込めて委員さんのアイデアでつけられたもの。
- 検討会議のメンバーとして、まちの中心である庁舎が無くなったらまちの賑わいはどうなるのか、何をすべきなのか、地域の皆さんで検討する会議を設けたのがこのまちづくり検討会議だと認識している。その後、庁舎統合については議決され、福光に設置されると決まったことで、福光地域でのこの会議はなくなってもいいのかなという考えも出てきて、目指す方向がわからなくなった。そのような経緯もあって、この提言については、福光は他の地域と比べて異質だと思う。
- 反論するわけではないが、私の地域ではそのような楽な話はなかった。福光の一等地と自負しているにもかかわらず、議会で試行錯誤している 2 年半で 10 軒も減った。住民が減っていかないように、このまちづくり検討会議というものを始めたのではなかったか。福光地域は 11 地区もあり、温度差もあるだろうが、どこを中心に話をしているのかわからなくなることも問題だ。県の知事政策局も推薦している、恵那市（岐阜県）の例では、地域というものをもう一度しっかり考えましょう、ということで地域組織自体をすべて解体し、そして、もう一度組み立てなおしている。合併したら一体感がなくなるというわれるが、行政機関で一体感というのはなかなか難しい。統合庁舎があるから、ないから、という話ではなく、福光地域はもっと次のステップを歩まなければいけない。問題点はどこへいっても同一ということはない。どこの地域も同じように若い人

の意見を聞いた方がよいということのようだが、注意すべき点はしっかりと注意していかなければいけない。もっと真剣に考えなければいけない。

- あやふやな言い方に終始して文言がわかりづらい提言になったことについて反省している。
- ここに表れていない部分でも、いろいろなところでいろいろな議論がなされた結果であることをご理解いただきたい。
- 庁舎の統合がきっかけのまちづくり議論というのは少し寂しいが、福光地域は課題も多いことから、原点に立ち返って、もっと幅広い議論ができるのではないかと。行政や関係機関のパイプ役としてももう少し掘り下げていけば、今から新しくやろうとしている小規模多機能をうまく取り入れていくこともできる。広くいえば、里山と商店街との結びつき。6次産業化を推進するといった意味でも、福光地域のなかでの地産地消といったことを広く深く生かすことができるのではないかと。それから、福光地域ではなくなるものとして福光高校がある。これは県の所轄かもしれないが我々もいろいろセッティングができるのではないかとと思うので、もっと議論していけばよいのでは。
- 4月から新しく検討組織を設立するということが、今日の意見も十分取り入れながら検討委員会をもう一度立ち上げていただきたい。
- 若い人の意見も聞かなければいけないし、色々な人の意見も聞かなければいけないが、せっかく自治振興会という組織があるわけだから、都市計画の専門家や学者なども入れてもっとしっかりと議論する必要がある。
- まちづくり検討会議では、分庁舎がなくなるだけでなく、まち全体、ひいては市全体がどのように進むべきかを、重点的に議論してもらえればよかったとも思う。自治振興会の方に意見聴取でも行って、各地区のことをより詳しく聞き出すことも必要。言い方は悪いが、旧市街の駐車場も少ないところにいろいろつくってみたいところでどうにもならない気がする。もっと幅広く意見を集めるべき。
- 高校の統廃合の問題でも、前の議員さんに意見を聞くなど色々調査した。福光は、財政的な観点から統合庁舎の方向にせざるを得ないにもかかわらず、あっちもこっちも開発してくれという、いわば「ダッジロール」を起こしている。このことは反省しなければならない。開発してくれというにしても一点集中してからにするべき。そういう経緯を再認識したうえで議論に入っていたきたい。

○まちづくり検討会議の委員さんたちは真剣に考えておられる。もう少し、広い視野、高い目線を意識して、今後検討していきたい。4月以降も、また皆さんと議論を進めていきたいと思う。高校の件については情報収集等を進めていければと思っているが、まだ子供たちが通っている段階で表立ったことはできない。ご理解ご協力をよろしく願いたい。